

平成 31 年 4 月 10 日現在

機関番号：82619

研究種目：若手研究(A)

研究期間：2015～2018

課題番号：15H05378

研究課題名（和文）絵巻を中心とした古代・中世絵画の伝来に関する研究

研究課題名（英文）Study of the Tradition of the Pre-modern Japanese Paintings, Focusing to Hand Scrolls

研究代表者

土屋 貴裕 (TSUCHIYA, TAKAHIRO)

独立行政法人国立文化財機構東京国立博物館・学芸企画部・主任研究員

研究者番号：40509163

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 12,000,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、絵巻を中心とする古代・中世絵画の研究を、従来顧みられることのなかった伝来や鑑賞歴といった作品の付随情報から捉え直そうとするものである。絵巻をはじめとする美術作品は、新たな所蔵者や鑑賞者を得ることでその「価値」を増幅させ、今日まで伝来してきた。本研究はこれら美術の「価値」形成のプロセスの一端を、絵巻を中心課題として検証し、絵巻が日本文化史上果たした史的意義を考究することを最終的な目標として設定した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究においては、古代中世絵画の伝来に関する情報を網羅的に収集することが求められる。そのため、(1) 古代中世の文献資料に記載された絵巻関係資料の抜き出しとデータ化、(2) 絵巻及び絵巻模本の調査、(3) 絵巻詞書のデータ化を精力的に進めた。収集データが膨大なため一般公開には至っていないが、将来的にはこうした蓄積データの公開を予定している。また、これらの成果の一部は東京国立博物館の特別展、特集展示等でも公開した。

研究成果の概要（英文）：The present study approaches the research of pre-modern Japanese paintings, focusing to hand scrolls, from a non-conventional point of view employing various additional information surrounding pre-modern Japanese paintings, such as the history of its tradition or appreciation. Historically, the "value" of hand scrolls and other works of art has been amplified with every new owner and appreciator they have acquired. This study verifies the process of "value" formation of works of art, focusing on hand scrolls, in order to consider their historical significance in the cultural history of Japan.

研究分野：日本美術史

キーワード：日本美術史 日本絵画史 文化史 文化財 絵巻 模本

## 様式 C-19、F-19-1、Z-19、CK-19 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

今日、私たちが眼にすることのできる美術作品が、多くの人々の存在を介して伝えられてきたことは言うまでもない。美術作品の研究に際して、これら作品の伝来や鑑賞歴といった付属情報は、作品の文化的意味やモノをめぐる「評価」を跡付ける観点から、作品そのものと同様の関心が払われてきた。だが、多くの絵巻研究においては、伝来や鑑賞歴に関わる議論が十分に成されてきたとは言いがたい。

こうした研究状況のなか、代表者は「絵巻の 伝来 をめぐる総合的研究」(科学研究費補助金若手研究(A)、H23~26年度)と題した研究課題を設定し、研究を推進してきた。だが、前近代の古記録などでは、絵巻とその他の媒体の絵画(掛幅、色紙、屏風、障壁画など)との違いを時に明確にし得ないという問題があった。そのため、本研究では絵巻のみならず、広く古代・中世絵画の情報収集をした上で、絵巻の特質を探るべく、研究対象を広げることとなった。この方針転換により、より広範な古代・中世絵画の伝来情報の収集がかない、研究の広がりや深化が期待された。

### 2. 研究の目的

本研究は、絵巻を中心とした古代・中世絵画の「伝来」に着目するものである。絵画をはじめとする美術作品は、新たな所蔵者や鑑賞者を得ることでその「価値」を増幅させ、今日まで伝来してきた。本研究はこれら美術の「価値」形成のプロセスの一端を、絵巻をはじめとする古代・中世絵画を素材として解明することを最終的な目標として設定した。

具体的には、絵巻をはじめとする古代・中世絵画の伝来情報を網羅的に収集することが大きな目的である。これらの収集データは今後の美術史研究のみならず、文学・歴史学・宗教史等隣接諸学にも還元しうるものであり、今後の文化史研究の一つの基盤として、大きな役割を担うことになると思われる。

### 3. 研究の方法

本研究は絵巻をはじめとする古代・中世絵画の伝来、鑑賞歴の整理・検討という新たな研究の方法を用いることで、今後の絵巻研究、さらには美術史研究に留まらない広く隣接諸学にも資する研究資料や、新たな研究の視点を提示することを目指した。

具体的には、まず、作品の伝来に関する諸々の情報を、諸資料(古記録・美術全集等書籍・研究論文・図録等)より抽出することから始めた。ここで言う 伝来 情報とは、作品そのものの所蔵者の移動(変更)のみならず、鑑賞歴や売買歴、展覧会出陳歴等をも含んでいる。これに並行して、諸資料から洩れる作品の調査を精力的に行い、研究の基礎資料を整えた。

具体的には、以下の三点を中心に調査を進めた。

古代~近世を中心とした日記、古記録、古文書等における絵画関係記事の悉皆的収集

絵巻模本の調査

絵巻詞書のデータ化

### 4. 研究成果

上記の方法に則り、四年間の研究期間において、以下の研究成果を挙げることができた。

古代~近世を中心とした日記、古記録、古文書等における絵画関係記事の悉皆的収集

本研究が主な対象とする古代中世絵巻の伝来、鑑賞情報を得るためには、日記、古記録等の文献資料を博捜し、そこに記載された本文を整理する必要がある。抜き出しにあたっては、絵巻のみならず仏画、肖像画、屏風等、絵画関係の記事をピックアップした。活字化され、公刊されている日記、古記録、古文書等から、絵画に関連する記事を約5,300件抽出し、これらの一部は、周辺記事とともにデータ化を完了した。

絵巻模本の調査

絵巻模本の多くは近世に作られたが、その制作に際して、所蔵者や伝来等の情報が記されている場合がままある。代表者の属する東京国立博物館には近世狩野派由来の絵巻模本が数多く所蔵されている。本研究では、東京国立博物館所蔵絵巻模本の悉皆調査を目指し、目録の整理、撮影、所蔵者や伝来、模写者等の情報を収集すべく、模本リストの整理を継続して行った。模本そのものの調査は約60件行なうことができた。

絵巻詞書のデータ化

絵巻作品の文字情報には伝来などについて記すものもある。そこで公刊されている絵巻作品の詞書及び伝来情報約50件のデータ化を進めた。

展示による成果公開

本研究の成果の一部は、下記の特集展示等により広く公開することができた。

- ・特別展「仁和寺と御室派のみほとけ」東京国立博物館平成館特別展示室、2018年
- ・特集「室町時代のやまと絵 絵師と作品」東京国立博物館本館特別1・2室、2017年
- ・特別展「春日大社 千年の至宝」東京国立博物館平成館特別展示室、2017年
- ・特集「春日権現験記絵模本 写しの諸相」東京国立博物館平成館企画展示室、2017年
- ・特集「歌仙絵」東京国立博物館本館特別1・2室、2016年
- ・特別展「鳥獣戯画 京都高山寺の至宝」東京国立博物館平成館特別展示室、2015年
- ・特集「春日権現験記絵模本 神々の姿」東京国立博物館特別1室、2015年

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計 15 件)

- 土屋貴裕「十二天画像の変遷 国宝「十二天屏風」と詫磨勝賀」(特別展「国宝 東寺 空海と仏像曼荼羅」展図録、査読無、2019年、pp. 223-226)
- 土屋貴裕「北野経王堂の変遷 - 大報恩寺六観音像の移座をめぐって -」(特別展「京都 大報恩寺 快慶・定慶のみほとけ」展図録、査読無、2018年、pp. 192-195)
- 土屋貴裕「国宝 大報恩寺本堂の仏後壁画 - 霊鷲山説法の立体曼荼羅 -」(特別展「京都 大報恩寺 快慶・定慶のみほとけ」展図録、査読無、2018年、pp. 220-224)
- 土屋貴裕「仁和寺と孔雀」(特別展「仁和寺と御室派のみほとけ 天平と真言密教の名宝」展図録、査読無、2018年、pp. 84-85)
- 土屋貴裕「仁和寺と山水屏風」(特別展「仁和寺と御室派のみほとけ 天平と真言密教の名宝」展図録、査読無、2018年、pp. 249-252)
- 土屋貴裕「春日大社 神々に捧げられた祈りと美」(特別展「春日大社 千年の至」展図録、査読無、2017年、pp. 17-24)
- 土屋貴裕「春日宮曼荼羅鑑賞の手引き 春日野を歩く」(特別展「春日大社 千年の至」展図録、査読無、2017年、pp. 100-101)
- 土屋貴裕「誓願寺所蔵「春日宮曼荼羅」について」(特別展「春日大社 千年の至」展図録、査読無、2017年、pp. 277-283)
- 土屋貴裕「春日宮曼荼羅 神のいます美しき聖地の風景」(『目の眼』485号、査読無、2017年、pp. 44-45)
- 土屋貴裕「来年新春は東京・上野で春日詣 特別展「春日大社 千年の至宝」」(『春日』96号、査読無、2016年、pp. 24-25)
- 土屋貴裕「高山寺伝来文化財の研究 寺宝の伝来と修理、及び「高山寺」朱文長方印をめぐる諸問題」(『東京国立博物館紀要』51号、査読無、2016年、pp. 3-87)
- 土屋貴裕「高山寺の至宝 鳥獣戯画と明恵上人ゆかりの美術」(特別展「鳥獣戯画 京都 高山寺の至宝」展図録、査読無、2015年、pp. 18-40)
- 土屋貴裕「石水院の梅尾開帳 高山寺と春日信仰」(特別展「鳥獣戯画 京都 高山寺の至宝」展図録、査読無、2015年、pp. 68-69)
- 土屋貴裕「二つの石をめぐる物語 明恵上人と紀州、天竺」(特別展「鳥獣戯画 京都 高山寺の至宝」展図録、査読無、2015年、pp. 94-95)
- 土屋貴裕「鳥獣戯画「平成の修理」から得られること」(特別展「鳥獣戯画 京都 高山寺の至宝」展図録、査読無、2015年、pp. 252-253)

〔学会発表〕(計 15 件)

- 土屋貴裕「天皇ゆかりの宝物・宝蔵とそのゆくえ 蓮華王院宝蔵絵を中心に」京都文化博物館シンポジウム「宝物と政権の歴史的諸相」、2019年
- 土屋貴裕「柿本人麻呂像と歌仙絵の系譜」出光美術館水曜講演会、2018年
- 土屋貴裕「室町時代のやまと絵」東京国立博物館月例講演会、2017年
- 土屋貴裕「白描歌仙絵の再検討 歌仙絵の起源、および「似絵」をめぐる諸問題」美術史学会西支部大会/大和文華館特別展「白描の美 - 画像・歌仙・物語 -」シンポジウム、2017年
- 阿部泰郎、鷹巣純、土屋貴裕、吉原浩人「座談会 聖徳太子絵伝と絵解き文化」安城絵解きフォーラム「聖徳太子絵伝と日本の絵解き文化」、2016年
- 土屋貴裕「国宝・餓鬼草紙と六道の美術」東京国立博物館月例講演会、2016年
- 土屋貴裕「室町時代のやまと絵」東京国立博物館月例講演会、2017年
- 土屋貴裕「白描歌仙絵の再検討 歌仙絵の起源、および「似絵」をめぐる諸問題」美術史学会西支部大会/大和文華館特別展「白描の美 - 画像・歌仙・物語 -」シンポジウム、2017年
- 土屋貴裕「聖徳太子絵伝に描かれた東国 富士山を中心に」第3回富士山世界遺産セミナー、2016年
- 土屋貴裕「日本美術/日本文化の新しい展示の模索 東京国立博物館本館のリニューアル構想に向けて」国際シンポジウム「海外における日本美術コレクションの意義とその活用」、2016年
- 土屋貴裕「華嚴五十五所絵 東大寺と華嚴の美術」東大寺講演会、2015年
- 土屋貴裕「院政期の美術 後白河院と絵巻を中心に」多摩美術大学連続講座「世紀を歩く美術と文化 : 12世紀」、2015年
- 土屋貴裕「聖徳太子絵伝鑑賞の場 瑞泉寺本聖徳太子絵伝を考えるために」井波絵解きフォーラム「南砺の聖徳太子信仰と絵解き文化を探る」、2015年
- 土屋貴裕「鳥獣戯画と高山寺ゆかりの至宝」特別展「鳥獣戯画 京都高山寺の至宝」記念講演会、2015年
- 土屋貴裕「鳥獣戯画甲巻、乙巻、丙巻、丁巻(計4回)」特別展「鳥獣戯画 京都高山寺の至宝」リレートーク、2015年

〔図書〕(計 2 件)

土屋貴裕 『室町時代のやまと絵 絵師と作品 』東京国立博物館、2017 年、pp.1-72

土屋貴裕 『歌仙絵』東京国立博物館、2016 年、pp.1-96

〔その他〕

ホームページ等

<https://www.tnm.jp/>

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。